

04北演 道内各地に展開、北部方面隊最大の実動演習



敵上陸部隊を攻撃する90式戦車



第782号

令和4年9月30日

要望事項

- 「真に戦える実効性ある部隊の創造」
- 「地域等との連携」
- 「人間力の強化」

発行：北部方面隊総監部広報室

北部方面隊は、8月29日から9月4日までの間、道内各地の演習場及び一般の用地を使用し、方面隊最大の実動演習である令和4年度北部方面隊総合戦闘力演習(04北演)を実施した。

本演習は、離島を含む着上陸侵攻対処能力の向上を目的として、作戦準備から対着上陸戦闘に至る一連の状況で実施し、北部方面隊の全ての部隊から、人員約12,000名、車両約3,400両、航空機約20機が参加した。

各部隊は、対着上陸作戦、離島の作戦、協同対艦・総合ミサイル防空作戦基盤に係る訓練、即応

方面総監直轄部隊訓練検閲

情報隊・電子隊・後方支援隊・衛生隊・対舟艇対戦車隊が受閲

北部方面隊は、8月29日から9月4日までの間、04北演の場を活用して、北部方面情報隊、第1電子隊、北部方面後方支援隊、北部方面衛生隊及び北部方面対舟艇対戦車隊に対し、教育訓練の成果を評価判定するとともに、その進歩向上を促すことを目的として訓練検閲を実施した。

各部隊は、04北演の状況下において、それぞれの部隊に与えられた任務に対して、迅速かつ適切に対応する等、日頃の



隊容検査 (北部方面情報隊)



輸送隊による弾薬輸送 (北部方面後方支援隊)



電子戦活動の準備 (第1電子隊)



防御戦闘を行う16式機動戦闘車



射撃準備を完了する多連装ロケットシステム発射機



96式多目的誘導弾の待機壕の構築 (北部方面対舟艇対戦車隊)



野外病院での負傷者救護 (北部方面衛生隊)



領域横断作戦統制・調整会同



フォークリフトによる燃料梱包訓練

令和4年度 北部方面隊総合戦闘力演習 着上陸侵攻対処能力を向上

北部方面隊は、8月29日から9月4日までの間、道内各地の演習場及び一般の用地を使用し、方面隊最大の実動演習である令和4年度北部方面隊総合戦闘力演習(04北演)を実施した。

本演習は、離島を含む着上陸侵攻対処能力の向上を目的として、作戦準備から対着上陸戦闘に至る一連の状況で実施し、北部方面隊の全ての部隊から、人員約12,000名、車両約3,400両、航空機約20機が参加した。

各部隊は、対着上陸作戦、離島の作戦、協同対艦・総合ミサイル防空作戦基盤に係る訓練、即応

予備自衛官招集訓練などを実施するとともに、方面総監直轄部隊訓練検閲を実施し、各部隊の練度を評価・判定した。

本演習を通じ、統合防衛力の強化を図るとともに、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域における能力を従来戦力と有機的に融合した「領域横断作戦」に係る統制・調整について演練した。

また、軍事と非軍事の手段を用いた「ハイブリッド戦」環境下での新たな戦い方の創造を図るなど、作戦運用の実効性の向上を図った。

(演習の詳細については、2面に掲載)

北部方面隊の活動はホームページ及び各種 SNS をご覧ください。

YouTube

Instagram

Facebook

Twitter

HP



ユーチューブ

インスタグラム

フェイスブック

ツイッター

ホームページ

令和4年度北部方面隊総合戦闘力演習

対着上陸戦闘訓練



反撃を行う90式戦車(第7師団)

北部方面隊は、北海道大演習場の千歳・恵庭地区を北海道沿岸部に想定して、本格的に着上陸侵襲対処に係る訓練を実施した。

この際、第11旅団(旅団長 青木陸将補)が、沿岸配置部隊となり、海岸部における障害の構成や防陣地の構築等を実施し、侵襲する敵を阻止する部隊として行動した。



阻止戦闘を実施する普通科部隊(第11旅団)



ドローンを活用した情報活動(第7師団)

また、第11旅団の強靱な防衛態勢に寄与するため、第3施設団(団長 河口陸将補)が海岸部に障害を構成するとともに、第1特科団(団長 牧野陸将補)及び第1高射特科団(団長 久保陸将補)の対地・対空火力戦闘により強靱な対着上陸戦闘を実施した。第11旅団が防御する

中、第7師団(師団長 中村陸将)が、方面隊の予備隊として、上陸部隊に対する反撃を実施した。



対戦車兵器で敵戦車を照準する隊員(第5旅団)

協同対艦・総合ミサイル防空訓練

本演習においては、対着上陸戦闘に連携して海上から侵襲する離島侵襲部隊(艦艇)を想定した協同対艦訓練及び航空機、弾道ミサイル、

巡航ミサイル等の経空脅威を想定した総合ミサイル防空訓練も実施された。

協同対艦訓練では、航空自衛隊が収集した情報及び陸上自衛隊のレーダ、監視哨等の陸上自衛隊の情報収集部隊が収集した目標情報に基づき、第1特科団を中心とした対艦ミサイルや多連装ロケットシステムによる射撃要領を演練した。

また、総合ミサイル防空訓練では、航空自衛隊の自動警戒システムと第1高射特科団を中心とした対空戦闘指揮統制システムを接続させ、対空情報・戦闘組織を構築し、組織的な対空戦闘要領を演練した。



88式地对艦ミサイル誘導弾発射機による協同対艦訓練(第1特科団)



火力調整会同(第1特科団)



81式短距離地对空誘導弾による総合ミサイル防空訓練(第1高射特科団)



協同対空戦闘指導(第1高射特科団)

第7師団 長距離機動訓練

第7師団は、8月21日から8月24日までの間、第71戦車連隊長を訓練部隊の長とし、長距離機動訓練を実施した。



苫小牧港においてPFI船舶に乗船する90式戦車



釧路駐屯地へ向け釧路市内を前進する99式自走155mmりゅう弾砲

作戦基盤に係る訓練



弾薬の積載(近文弾薬支処)



緊急患者受入れ(自衛隊札幌病院)

北海道補給処(処長 堀江陸将補)は、道内各地の演習場、駐屯地等において、展開する部隊の作戦基盤の維持に係る訓練を実施した。

本訓練では、補給品の部隊に対する交付要領、各種補給品をコンテナ化し、方面兵站基地に集積する要領、第一線部隊の近傍に、作戦基盤となる応急支援地域を開設・運営する要領等を演練した。

即応予備自衛官招集訓練



夜間の警備訓練



野外での補給訓練

北部方面隊は、04北演習間に即応予備自衛官を招集して、即応予備自衛官招集訓練を実施した。

訓練に参加した隊員は、「有事での弾薬補給点での補給要領について確認するとともに、前線でも重要な支援であることも重要な支援であることを感じ、招集訓練で実施している訓練の重要性が理解できた。」と述べた。また、別の隊員は、「有事に備えるべき野外行動に関する知識、技術、特に偽装の重要性を再認識できた。」と感想を述べた。

第17次派遣海賊対処行動支援隊要員帰国行事

ジブチ共和国での任務を完了し無事帰国

第11旅団(旅団長 青木陸将補)の第10即応機動連隊基幹で編成された、第17次派遣海賊対処行動支援隊の隊員は、アフリカソマリア沖・アデン湾における海賊対処の活動拠点であるジブチ共和国での約半年間に及ぶ任務を終了し、全員無事に帰国の途に就いた。

8月9日、滝川駐屯地において、ご来賓・ご家族等のご出席のもと、帰国行事が行われ、青木旅団長は式辞において、「197日間に及ぶ長期にわたり、第17次派遣海賊対処行動支援隊としての任務の完遂、本当にご苦勞様」と述べた。また、方面總監からは、「今回の任務に対する崇高な使命感の賜である。多くの部隊の協力や家族の理解への感謝を忘れないで欲しい。」と述べた。

派遣海賊対処行動支援隊に参加した隊員からは、「気温50度の猛暑の中、隊員一人一人が前向きに任務を完遂できたのも、各部隊及びご家族等からの温かいご支援によるもの。」と感謝の思いが述べられた。方面隊は、引き続き、あらゆる任務に対応し得るよう日々努力を続けていく。



帰国行事



家族との再会



帰国報告



出迎え行事

第2師団レンジャー帰還式

限界を超え、己に打ち勝ち 掴んだレンジャーき章

第2師団(師団長 富樫陸将)は、第25普通科連隊が担任して実施したレンジャー集合教育を実施し、新たに23名のレンジャー隊員が誕生した。

5月から約2か月半に及ぶレンジャー教育を実施し、集大成である最終想定での困難な任務を完遂した学生達は、7月30日、遠軽駐屯地に無事帰還し、師団各部隊の隊員及びご家族からの出迎えを受けた。

その後、行われたレンジャー帰還式では、連隊長から隊員一人ひとりにレンジャーき章が授与された。

誇りと自信、そしてレンジャーき章を胸にした隊員達は、それぞれの部隊で活躍していくため、引き続き、任務に邁進する。



レンジャーき章の授与



久しぶりに家族との対面



家族及び隊員に迎えられ帰還

上富良野駐屯地業務隊長
2等陸佐 及川 秀亮

昭
和
46
年
生
北
海
道
出
身
防
衛
部
防
衛
課
編
成
班
長



自衛隊函館地方協力本部長
1等空佐 大垣 雅之

昭
和
45
年
生
千
葉
県
出
身
航
空
自
衛
隊
航
空
教
育
隊
第
2
教
育
群
司
令



第11旅団長
陸将補 青木 伸一

昭
和
41
年
生
宮
崎
県
出
身
富
士
学
校
副
校
長
兼
ね
て
諸
職
種
協
同
セ
ン
タ
ー
長



8月着任 部隊長紹介



静内駐屯地業務隊長
2等陸佐 青木 明宏

昭
和
43
年
生
大
阪
府
出
身
小
平
学
校
大
阪
府
出
身
人
事
教
育
部
研
究
科
長



幌別駐屯地業務隊長
2等陸佐 宮本 健

昭
和
44
年
生
熊
本
県
出
身
内
局
整
備
計
画
局
施
設
技
術
管
理
官
付



釧路駐屯地業務隊長
2等陸佐 松澤 吉広

昭
和
43
年
生
山
形
県
出
身
宮
古
警
備
隊
副
隊
長



別海駐屯地業務隊長
2等陸佐 森本 英樹

昭
和
45
年
生
北
海
道
出
身
富
士
学
校
諸
職
種
協
同
セ
ン
タ
ー
総
合
研
究
課
総
括
班
長



第218回

～心の健康相談室～

人生に潤いを与える言葉

風、疎竹に来たる、風過ぎて竹は声を留めず。
雁、寒潭を渡る、雁去って潭は影を留めず。

故に君子は事来たて心始めて現われ、
事去って心随って空し。

(「菜根譚」前集・82)

これは、「疎(まば)らな竹林に風が吹き入ると、竹は音を発するが、風が過ぎ去ると竹は音を発しない。雁が寒潭の上を過ぎ去ると雁の影が映(うつ)るが雁が過ぎ去ってしまうと水面に影を残さない。道を心得た人は、物事が眼前に生じて始めて心を動かし、過ぎ去れば、その事に執着しない」という意味です。

つまり、「物事に捉(とら)われずに、事を為(な)して、跡(あと)を止(とど)めず」ということではないでしょうか。

心の健康相談・カウンセラー 根本 和雄



F-15J/DJ戦闘機の展示(航空自衛隊)



AH-1Sの展示(陸上自衛隊)

陸海空自衛隊への理解の促進
北部方面隊は、7月16日及び17日、東千歳駐屯地及び航空自衛隊千歳基地において、令和4年度陸海空自衛隊総合広報(ノーザンスピリット22)を実施した。
本事業は、自衛隊に対する理解を促進し、人材の確保に寄与することを目的として、陸海空自衛隊の職業上の魅力を発信する体験・見学のイベントである。
今年度は39年目の実施であり、高校3年生等を主対象として約250名が参加した。
参加者は、90式戦車の試乗、航空機体験搭乗、装備品展示、業務体験、体験喫食、現職自衛官との懇談等を通じて、自衛隊という職業についての理解を深めた。
参加者からは、「丁寧な説明を受けて、自衛隊に関する理解が深まった」、「自衛隊の職場の雰囲気を感じる事ができた」等の感想が寄せられ、有意義な募集採用広報に繋がることができた。

陸海空自衛隊への理解の促進

陸海空自衛隊総合広報'22

北部方面隊は、10月15日及び16日の両日、北部方面隊創隊70周年記念行事を開催いたします。
今年度の記念行事は、創隊70周年の節目の年として、日頃からお世話になつて居る地域の皆様に対して感謝の気持ちを示すため、15日に、札幌文化劇場(hitaru)において、公募による70周年記念演奏会を実施いたします。
また、16日には、真駒内

北部方面隊創隊70周年記念行事「70周年記念演奏会」煌めく未来へ～北の大地のハーモニー～
令和4年10月15日(土)
会場：札幌文化劇場 hitaru

北部方面隊創隊70周年記念行事
煌めく未来へ
～北の大地のハーモニー～
令和4年10月16日(日)
陸上自衛隊真駒内駐屯地 9:00～15:00

北部方面隊創隊70周年記念行事案内

Table with 2 columns: 10月15日(土) and 10月16日(日). Contains event details for hitaru and the base, including times and application information.

◆ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から試験日程が変更する可能性があります。
◆ 試験日程、各種イベント、説明会等の情報は、最寄りの自衛隊地方協力本部のHPをご確認ください。

QR codes for regional cooperation headquarters: 札幌 (011-631-5472), 旭川 (0166-51-6060), 帯広 (0155-23-5882), 函館 (0138-53-6241).

あかしや第783号掲載予定記事
・北部方面隊創隊70周年記念行事
・国内における米海兵隊との実動訓練
・北海道訓練センター実動対抗演習
・各部隊訓練記事
・自衛官候補生及び一般陸曹候補生修了式
・募集記事等

Recruitment schedule table with columns: 募集種目, 受付期間(締切), 試験日. Lists various recruitment categories and their respective dates.

自衛隊採用案内